

# 県中教研 保健体育部会だより

第 36 号

発行日 令和3年3月  
発行所 富山市千歳町1-5-1  
富山県中学校教育研究会  
編集責任者 池淵 直人  
題 字 金山 泰仁 先生

## 「男女共習」に向けて

主任指導主事 松嶋 智

今年度の授業研究では、男女が一緒に活動する学習を参観することができた。砺波地区では、グループで創作したダンスを大型モニターで振り返る場面で、女子生徒が「今の男子の動きかっこいいね。」とつぶやき、学習カードに記録していた。高岡市で行われた走り幅跳びの授業では、タブレット系の女子生徒が「男子のうまい人の跳び方を撮影して真似てみたらいいかも。」と自分たちの踏み切り場面の様子と比較しながら学習を進めていた。どちらの授業もICTを活用しながら学び合いが行われていたが、意図的に互いのよさを伝え合う場面が設定されていれば、より効果的で活性化された学習になったのではないかと感じた。

新学習指導要領解説保健体育編の第3章指導計画の作成と内容の取扱いに関する配慮事項として、「体力や技能の程度、性別や障害の有無にかかわらず、運動の多様な楽しみ方を共有することができるよう留意すること」と記載されている。中学生にとって仲間と共に学ぶ体験は、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けた重要な機会となる。運動の技能を高めていくことのみならず、焦点化するのではなく、共生の視点から捉え、体育の見方・考え方を働かせた学習への転換が図られるよう期待されている。

12月にオンラインで実施された文科省主催の教育課程研究協議会でも、男女共習に関する内容が話題となった。実際の学習を考えると困難な面が大きいという意見が大半であったが、教科調査官からは、「全ての単元で男女共習を行うことができなくても運動種目や活動場面によっては、健康・安全に配慮しながら指導方法の工夫を図り、どうすれば効果的な学習ができるか実践を重ねてほしい。」と助言をいただいた。

今後も、コロナ対策のため安全最優先で授業を進めながら、より深い学びにつながる男女共習の在り方について探究していただきたい。

(西部教育事務所)

## 令和3年度へ向けて

部長 池淵 直人

今年度の保健体育科の授業については、教員はマスクを着用する、生徒は十分な間隔をきちんととったうえで、マスクを外して活動してよい。ただし、運動の前後、特に会話をしたり話しを聞いたりする場合はマスクをする、その他にも、活動前・活動中・活動後の健康観察の徹底等、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、例年とは異なる実施となり、気を張りっぱなしの毎日で大変ご苦労されたことと思います。

さて、令和2年度は、「運動量の確保と学び合いの充実」「振り返りの充実」に重点を置き、研究を行いました。

話合いの際に練習内容カードを班ごとのボードに貼り付けられるようにしたことにより、時間短縮につながり、運動量の確保につながりました。また、教師が「教える」場面と生徒が「考える」場面を意図的に設定することにより、自ら積極的に考えを広げ、アイデアを出したり、他者と肯定的に関わりコミュニケーションを図ったりするなど、課題解決に向けて自主的、主体的に取り組む生徒の姿が多く見られました。

令和3年度は、生徒が体育・保健の見方・考え方を働かせながら「主体的・対話的で深い学び」となる授業づくりの推進に向けて、

- ①楽しさや喜びを味わいながら授業に取り組むことのできる必要感のある学習課題の工夫
- ②成果の確認と次時につながる振り返りの充実
- ③心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康の保持増進

を重点項目とし、研究を進めます。そして、豊かなスポーツライフを実現するための資質や能力の育成を目指し、これまでの研究をさらに深め、進めていく予定です。

最後に、新学習指導要領の全面実施の準備とともに、令和3年度の研究の準備をお願いします。

(富・北部中)

# 第64回 研究大会の取組

## 新 川 地 区

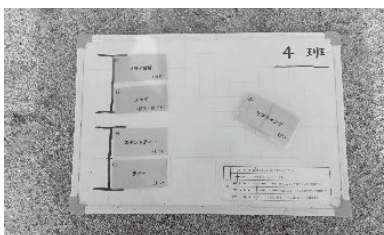
### 1年 球技「ソフトボール」

指導者 丸山 峻史

「班員と協力して互いの課題を解決しよう」を学習課題に、ソフトボールの授業が提案された。授業は、課題解決のための班別ミーティングから始まった。各班には、一人一人の課題の書かれたホワイトボードが配られていた。その課題を解決するための練習を各班で選択し、練習に取り組んでいた。その後、再び班別ミーティングを行い、前半の練習の振り返りやアドバイスをし合い、再度、練習に取り組んだ。



部会協議では、「緻密に準備された授業であった」「男女共習のよさを生かして、関わり合えるとよい」「練習主体の授業から、どのように試合につなげていくとよいか」等について活発な意見交換が行われた。



豊田真一指導主事（東部教育事務所）からは、「生徒への誠実な声かけや、整列間隔の配慮等、生徒が安心して授業に向かうことができる環境が整えられていた」「生徒の疑問に対して授業者が教える場面と、問い返して考えさせる場面が両方あった。生徒自身が考えて活動できる授業であった」「練習から試合につなげるために、発達の段階や技能の程度に応じた工夫をしたり、生徒の意欲につながるルールの工夫をしたりする必要がある」「生徒が課題を解決するために必要な数の場を、できる限り準備するとよい」等、貴重な助言をいただいた。また、「指導と評価の一体化のための学習評価」と題して、評価の方法や単元毎の工夫について具体的な例を挙げながら指導していただいた。

早川 健人（中・上市中）

## 富 山 地 区

### 3年 器械運動「跳び箱運動」

指導者 服部 雄大

「ONE TEAM跳び箱レベルアップ大作戦～仲間と共に積極的に技に挑戦したり、仲間の技をよりよくするためのアイデアや自分にできることを考えたりしてみよう」を学習課題に、3年生男子による器械運動「跳び箱運動」の授業が提案された。授業は、チーム毎に前時の演技映像の鑑賞から始まった。本時の課題を観る視点に据え、活発に意見交換を行った。その後、全体構成を確認し、演技構成改善案の試し練習を行った。練習の終わりにはグループ毎に作品の見せ合い、アドバイス交換を行った。生徒は、よりよい作品づくりのため最後まで、上手にPDCAサイクルを生かした学習をしていた。また、振り返りでは「運動をする、みる、支える、知る」という視点で感想をもつ生徒を指名し、活動の様子や心情の変化を語らせた。



竹内康彦主任指導主事（東部教育事務所）からは、「生徒は生き生きと笑顔で活動していた。ONEチームで一体感を感じながら、仲間のために一人一人の役割を果たしていた。授業は、ラーニングピラミッドにおけるアクティブラーニングの効果が随所に見られた。グループ討議を行う時間、自ら練習する時間、他の人に教える時間と活動内容が明確に設定されており、生徒は学習の見通しをもって活動していた。しかし、活動内容が盛り沢山だったことや教師主導のタイムマネジメントであったことは、生徒の『話し合ったことをもう一度試してみたい!』、『もう少し話し合う時間が欲しい!』という思いを満たせる工夫が必要である」また、「小・中連携を大切にしながら系統性をもたせること、授業を男女共習にしていくこと」等、貴重な助言をいただいた。

藤井 明代（富・速星中）

# 第64回 研究大会の取組

## 高岡地区

### 1年 陸上競技「ハードル」

指導者 横田 有司

「ハードルを滑らかに走り越すために、グループで話し合ったり、撮影したり動画を観たりし、踏み切りを意識したアドバイスをしよう。」を学習課題として、2学年男女共習によるハードルの授業が提案された。日々の実践の積み重ねから築かれる、教師と生徒の好ましい人間関係が随所に感じられる授業であった。小学校での既習事項が確認されていたり、前時までの学習内容が明示してあったりすることで、生徒の目指すハードリングのポイントが明確になり、主体的な活動につながっていた。また、ICT機器を用いて撮影したことにより、自分の動きの成長



部分や新たな課題の発見につながり、効果的な走りの追究に生かすことができた。

部会協議では、観察した6つのグループについて活動の様子を基に協議を行い、授業で活用した「振り返りシート」にある“学びの蓄積コーナー”が、生徒一人一人の技術の習得や知識・技能の向上に繋がる有効な手立てであった等の意見が出された。南明子指導主事（西部教育事務所）からは、新学習指導要領全面実施に向けて、評価計画や指導案の作成における留意点について、解説を踏まえながら指導していただいた。また、評価ができる授業を仕組むことの重要性等についても分かりやすい助言をいただいた。



保健体育科の学習は、運動を行い、他者との関わりが必要不可欠である。今後もコロナ禍において常に

感染状況を注視しながら保健体育科の授業全般において対策を考えていくことが求められる。

金場 安史（高・伏木中）

## 砺波地区

### 3年選択「現代的なリズムのダンス」

指導者 早苗 健治

「体やリズム、空間の使い方を工夫し、まとまりのあるダンスを創り上げよう」を学習課題に、3年生男女共習による選択「現代的なリズムのダンス」の授業を提案された。授業は、2年次の既習事項を取り入れた準備運動から始まった。

また、ヒップホップの基本ステップを教師自ら示範し、知識と技能の習得を図った。グループ活動では、話し合いの中で出たアイデアをホワイトボードに書き、構成を練り上げた。また、タブレット端末などの視聴覚機器を有効活用し、動きを客観的に評価し改善した。自他の動きのダイナミックさやまとまりのよさの評価を意識させた振り返りでは、全体で動画を視聴し、互いのよさを認め、技能の向上や改善点などを確認して次時へつなげた。



部会協議①では、「学習形態」「技能の習得」「ICTの活用」等、率直な感想や質問について意見交換が行われた。松嶋智主任指導主事（西部教育事務所）より、安全面、学習形態や教材研究の深さ等について助言をいただいた。また、苦手意識のある生徒に、ほめ言葉をかけて自己有用感を高めるリーダーの育成や男女共習の有用性について助言をいただいた。

部会協議②では、新学習指導要領の完全実施に向け、綿密なカリキュラムマネジメントと評価規準の作成についてご指導いただき、体育の楽しさをさらに高める実践的な助言をいただいた。

鷲尾 尚子（小・石動中）



## 実践報告

報告者 富山大学人間発達科学部附属中学校  
教諭 鷓飼 雅信

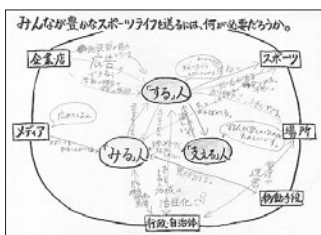
1年生を対象に「スポーツの多様性」の学習を全4時間で実施した。紙面の都合上、第3時について述べてい。

本時では「みんなが豊かなスポーツライフを送るには何が必要だろうか」を学習課題に据えた。これまでの学習で生徒は、生活経験をもとにスポーツの必要性について考えてきた。また、総合的な学習時間との連携を図り、氷見市のはんぎょボール体験や富山グラウジーズの試合を観戦したり、富山市スポーツ振興課等への調査活動をしたってきた。そのため生徒は、スポーツには【する】以外にも【みる】【支える】といった多様な関わり方があることに気付いている。

しかしながら、多様なスポーツとの関わり方は理解できても、それらが互いに影響し合うことで、「豊かなスポーツライフ」につながっているイメージはもちづらい。

そこで、本時では【する】【みる】【支える】の関わり方についての意見が出た後、「【する】人したら【みる】人がいなくても【する】ことはできるのでは？」と問うた。生徒からは、「見る人がいるから、やる気も出る」「もしプロなら、見る人がいてこそそのもの」という必要性を求める意見が出てくる。このような、問いからのやり取りを糸口に、スポーツへの多様な関わり方には、それぞれの立場が関わり合っていることに目を向けさせるようにした。また、スポーツライフを取り巻く環境の存在にも関心が向くようにも促した。

次に「そんな風に考えると、もっとたくさんの関係が見えてきそうです。ペアで相談しながら探してみましょう。」と投げかけ、豊かなスポーツライフのためのスポーツとの関わり方への理解が深まるようにした。ここでは、資料のワークシ



資料 「生徒の書き込んだワークシート」

トに直接書き込む活動を通して、生徒が主体的・対話的に学習を深められるよう配慮した。

学習の振り返りでは、あえて前時と同じ学習課題について、自分の考えを書かせた。こうすることで、本時での学びの深まりに生徒自身が気付くことができると考えた。生徒の変容は、そのまま評価にも生かすこともできると考えている。

実践後の課題として、体育理論の学習で生徒が得た「スポーツには多様な関わり方があるという見方・考え方」を、他の時間でどう生かすかが挙げられる。体育の学習の中で、教師も生徒もスポーツとの多様な関わりに気付ける授業が大切であると強く感じた。

## フレッシュさん



### 1年目を振り返って

新庄中学校 教諭 浅野 友紀

年度当初は、突然臨時休業となり、授業のスタートがなかなか切れないことに対して、もどかしさと不安を感じていました。そんな中、学校が再開し、自分は「自分なりの全力を尽くすこと」、「生徒と同じくらい自分も楽しむこと」を意識し授業を続けました。しかしうまくいかないことばかりで先輩教員との差を感じる日々でした。そんな僕を救ってくれたのは生徒からの「楽しかった」、「早く体育したい」等の言葉です。生徒の言葉はどんなことでも可能にするなど感じながら、その言葉が自分の原動力となり、より多くの生徒が満足できる授業を展開していかなければならないと奮い立たせられました。

1年間を振り返ると、課題が山積みで、もっと生徒のためにできることがあったのではないかと思います。しかしその中で収穫した課題を自分自信の成長につなげ、今後も精進していきたいです。またコロナ禍だからこそ普段はなかなか気付けない、生徒と授業ができる喜びを改めて感じることができました。今後も生徒と過ごす時間をより一層大切にしていきたいと思っています。



### コロナ禍の中で

出町中学校 教諭 大西 将也

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため休校となった4月。初めての中学校勤務という不安が、何倍にも増しました。6月に学校が再開され、コロナ禍の中でも一生懸命に取り組もうとする生徒の姿に、不安を吹き飛ばすほどのエネルギーをもらいました。

陸上競技の学習では、今まで思うように体を動かすことができなかった生徒が、いつも以上にはりきってグラウンドを駆け抜ける姿を見て、スポーツのもつ価値のすばらしさを改めて感じました。サッカーやソフトボールなどの球技の学習では、話し合い活動が制限されている中、身振り手振りや意思を伝え合い、ゲームを楽しんでいる生徒たちに感心しました。どんな状況下になろうとも、生徒たちに元気や気付きを与えてもらえる教員の仕事に、より一層のやりがいを感じているこのごろです。

コロナ禍の中だからこそ感じた思いや学びを、これからの教員生活で大切にしていきたいです。